

# Narromine News 2006

## 吉瀬はるかさん、アルプスフライト



10月8日～20日 **オーストラリア選手権** (Kingaloy)  
ShinzoがNimbus 4DMで出場します。**Co-Pilot**を募集します。  
また、クルー体験希望者も募集します。

11月19日～25日 **Narromine Cup Week**  
イベントに参加して飛べます。フレンドリーな競技会形式のイベントです。

11月26日～12月2日 **NSW州選手権大会** (Narromine)  
イベントに参加して飛べます。

お問い合わせは、[ideo@tkd.att.ne.jp](mailto:ideo@tkd.att.ne.jp) まで！

### 2006, 7, 23 **スタッフ募集！！**

Soar Narromineでは、今シーズンのスタッフを募集しています。  
ライセンスの有無は問いません。ナロマインに滞在して滑空センターのお手伝いをしてくださる方を歓迎します。給料は出ませんが滞在(宿泊)と週1日のグライダープライベートフライトが保証されます。

本場のグライダーオペレーションを学びたい方、チャレンジをお待ちしています。  
お問い合わせは、[ideo@tkd.att.ne.jp](mailto:ideo@tkd.att.ne.jp) まで！

### 2006, 5, 24 **今年の「夏休み特別企画」の詳細が発表になりました。**

今年も夏休み特別企画・集中トレーニングコースを開催します。  
詳細は、[こちら](#)

### 2006, 2, 26 **「春休み特別企画」一部日程変更**

Shinzoは3月末、今年スウェーデンで開催される世界選手権に向けたオーストラリア・ナショナルチームのトレーニング行事に参加することになりました。従いまして、今年の「春休み特別企画」は、誠に勝手ながら3月23日をもって終了とさせていただきます。

### 2006, 2, 11 **Soar Narromine's fun competition !!**

私事ですのでChristianeからの原文で掲載します。



The thermals were blue up to 6,000 feet, a fun competition was set for characteristic building. Masahiko won the fun competition.

The winner's speed: 81 km/h over a 140 km triangle course, task handicap: 1.1, glider handicap: 0.95, scoring points: 84.6.

Masahiko is not staff of Soar Narromine, he is one of our visiting pilots who is helping us. Mainly he manages the communication in Japan. Soar Narromine is a small business but successful because many pilots and friends are helping us. Thank you Masahiko.

#### 2006, 2, **Shinzo guides through French Alps !**



2006年5月1日～13日フランス・サントーバンを拠点に Nimbus 4 DM で飛びます。プロバンススタイルのペンション。ワイン付きのフルコースディナーも楽しめます。Shinzoと共に飛ぶ人は既に決まってしまいましたが、現地Eric NapoleonのNimbus 4Dに若干の空きがあります。興味のある方は、至急お問い合わせ下さい。

#### 2006, 2, 3 **Shinzoのフラストレーション !**

雲底12,000feet、気温43°C。まだNimbus 4DMの交換ベルトは届きません。Shinzoのフラストレーションは続きます。



### 2006, 1, 21 **皆さんご注意を！**

Soar NarromineのVentus b 16.6 がハードランディングにより壊れました。パイロットが着陸フレア時にコントロールを失ったのが原因です。このパイロットの方は経験豊富で、ナロマインに何度も訪れているベテランでした。

このアクシデントの二日前、このパイロットの方は宿でウイスキーをボトル半分ほど飲み、気を失って座っていた椅子から落ち救急車が呼ばれました。翌朝彼が私たちに説明したところによると、彼にとってこれは初めてのことでないが、飲み過ぎによりこれまで問題が残ったことはなく心配要らないとのことでした。それでも私たちは、その時点でも彼の体内に残るアルコールが依然高くフライトに支障があると考え、その日はフライトしないよう勧めました。

翌日彼は回復し、離陸しました。2時間ほどのフライト後、空酔いしたので着陸するとの無線通報がありました。そして着陸する直前、彼は意識を失ってしまったのです。この日は雲底 9,000feet、10ktサーマル、気温は39°Cでした。アルコールによる脱水症状、そしてハイポキシアが原因となったのでしょうか。

なにより幸運だったのはパイロットに怪我がなかったことです。壊れたグライダーは今シーズンオフに修理する予定です。

**私もナロマインでのダイナミックなフライト後のビールやワインが何にもまして楽しみな者の一人として、この事例は他人事ではありません。末永くグライダーを楽しむために、私たち酒好き一人一人が心して自制しなければならぬことだと感じました。井手尾**

### 2006, 1, 3 - 13 **オーストラリア選手権・南オーストラリア州 Gawler**

Shinzoは当初、Nimbus 4DMで出場する予定でした。しかし大会へ出発する前日、交換後まだ3時間しか使っていない同機のエンジンベルトが破断してしまいました。一時は出場断念がShinzoの頭をよぎりましたが、常連のお客さんKoichiさんが自らこの時期予約していたDiscus2aをShinzoに譲ってくれました。おかげさまでShinzoは今年も選手権出場を果たすことができました。

競技会それ自体は問題ありませんでしたが、気象条件はGawlerの常で難しくトリッキーであり、フライトプランニングには最新の注意が必要でした。これはShinzoのフライトを必要以上に保守的にしました。今回クルーなしで大会に臨んだShinzoにとって、アウトランディングは絶対に避けなければならなかったからです。

Gawlerへ向かって砂漠を二日間移動するロングドライブを手伝ってくれたItsuoさんにShinzoはとても感謝しています。また機体を譲ってくれたKoichiさん、そして私の不在中Christianeを助けてSoar Narromineのオペレーションを手伝ってくれたAsukaさん、Gordon、そして現地でもしアウトランディングした場合のヘルプを申し出てくれたAaron, Graem, Beryl, Arnieに感謝しています。

大会の詳細は、[こちら](#)

# 飛行&交流とアルプスの旅

フランス・サントーバン&ドイツ・ウンターワッセン

日本の女性グライダーパイロットの草分けであり、3ダイヤモンドパイロットでもある吉瀬はるかさんが、Soar Narromine恒例のフランスアルプスフライトに参加してくれました。そのときの体験記、及びドイツ紀行を寄せていただきました。



吉瀬はるか

(2006年5月5日～18日)

サントーバンではフランスアルプスの氷河を飛びプロバンス地方のディナーを毎日楽しみ、ドイツでは心温まる家庭料理に舌鼓し、ウンターワッセン滑空場ではオーストリアとの国境に近い雪山山系をも飛べました。更にはグライダー界のトップクラスの方々と語り、翌日にはなんと、プレス取材まで受けるというオマケ付きのビッグで満足な旅でした。



# Haruka Kise ist begeistert

## Japanische Segelfluggpionierin schwärmt von der DASSU

Unterwössen (sgg) – Wenn eine leidenschaftliche Segelfliegerin wie Haruka Kise, die als Pionierin des Segelflugs in Japan gilt, über einen Segelfluggplatz sagt, er sei der „beste“ Ort zum Segelfliegen und habe ihre Erwartungen voll erfüllt, dann darf die Deutsche Alpensegelflugschule (DASSU) Unterwössen zu recht stolz auf sich sein. Drei Tage lang war Haruka Kise vor Ort und hat auch Ort und Menschen lieb gewonnen – sehr zur Freude von Ali Siebert, dem geschäftsführenden DASSU-Vorstand und Bürgermeister Hans Haslreiter.

Es gibt kaum ein Land, in dem Haruka Kise, die vor drei Tagen ihren 73. Geburtstag feierte, noch nicht geflogen ist. Nur in Deutschland war sie noch nie. Ihr Wunsch war es, hier den Ort kennenzulernen und dort zu fliegen, wo es am besten ist. Für Shinzo Takizawa aus Australien, die die Japanerin begleitet, kam dafür nur Unterwössen in Frage. Shinzo Takizawa, Mitglied des australischen Nationalteams, das Ende Mai an den Weltmeisterschaften in Segelfliegen in Schweden teilnimmt, kennt

die DASSU gut. Er kommt seit zwölf Jahren zum Training ins Achental.

Im Gespräch mit der Chüengou-Zeitung sagte er, der als junger Mann in Japan bei Kise das Segelfliegen gelernt hatte, da die Weltmeisterschaft immer in Europa abgehalten werde, sei es wichtig, sich hier vorzubereiten. Und dafür boete

die DASSU mit Alpensegelflug und weiten Strecken in Deutschland die besten Möglichkeiten.

Siebert ergänzte die DASSU gewinne national und international immer mehr an Bedeutung, vor allem auch durch die hervorragenden Ergebnisse die Piloten vom am Flugplatz beheimateten

Verein Alpensegelfluggzentrum Unterwössen im Streckensegelflug „einfliegen“. Und Bürgermeister Hans Haslreiter betonte die Gemeinde sei auf die DASSU sehr stolz, die sowohl für den Ort als auch für den gesamten Chüengou von großer touristischer Bedeutung sei.



Christiane Takizawa, Bürgermeister Hans Haslreiter, Haruka Kise, Shinzo Takizawa und Ali Siebert von der DASSU (von links). Foto: Schwegel

今回の海外旅行はバラエティーに富んだ本当に満足のゆくもので余韻をかみ締めています。スケジュールの詳細を、滝沢信三氏と奥方のクリスチャーニが立ててくださったお蔭です。



私の大まかなプランは、パリからTGV列車で南下しマルセイユからRE列車で北上し、サントーバン滑空場でビッグな山岳滑翔を楽しみ、滝沢氏と車でドイツに向かう事でした。



サントーバン滑空場は施設など世界選手権が行われただけあって規模が大きく驚いた。

初日8日は天気が悪く手続きやチーフのレーネ・フォーティンとの挨拶等を済ませる。翌9日からいよいよフライトの始まり。一昨年Vinonで飛んでいても心地よい緊張が走る。

山岳滑翔に最適の日、DuoDiscusでヤニックとPic de Bure迄の120kmを飛ぶ。



殆ど旋回せずに山肌の窪みに思い切って接近し上昇、尾根の上に出て次の尾根を目指す。徐々に高度を上げてゆく。北へ向かう程やまの高度が高くなり尾根の途切れる所では、サーマル旋回も加えて高度を上げ次の山に向かう。山肌に限りなく接近する必要があるし急バンクはつけるしで、それはそれはスリリングなフライトである。でもヤミツキになる。





手前の雪山Cuchonyや Clappelに近づいた所で急に極端に気流が荒れ手におえなくなる。YouHaveControl初めてヤニックに操縦を頼む。上空には暗雲が垂れ込め、目の前は崖が。機体は大きくガブられ、後席では何か物が2つ躍る音がして怖くなる。帰りましょうと。アルプス山岳滑翔のスリルは表現しきれない。実際に飛んで醍醐味を実感して欲しい。

10～13の4日間は信三さんとNinbus 4DMで飛ぶ。



1000kmは飛べるよねと信三さん。本当に飛べた。

滑走路のセンターエンドにテイクオフを待つNinbus4DMの雄姿が。  
10日もビッグなフライトだったが、11日は北へ今回最長距離を飛べ貴重な経験をした。  
「この先50kmでモンブランだよ」と言われた時、よし次回は夢を実現させよう！！と。







上空からでも目印になるマロニエの巨木に覆われたピンクの潇洒なペンションが我々の宿。





宿の周囲には野菜類、チャボ、スパイス類など、夜の料理の主役が登場のチャンスを待つ。



美味で手作りの数種の食前酒やつまみでいい気分になる頃コースの整った別室に移動する。一度たりとも同じメニューを出さないオルガさんのプロバンス地方の手料理に舌鼓みする。



今晚の取り分け役は私。  
んのデザートパフォーマンス

クライムさ

調理以外のプロモート役はご主人のクライムさんがウイットを飛ばしながらリズムカルに進めてくれるので皆は可笑しく楽しいやらで、会話も食も大いに進むのです。驚いた事に美味しい料理を目当てにライダー長距離世界新記録保持者のクラウスオールマンがいた。その他にも歩き、自転車、バイク、車などで旅行中の人々が泊まり食卓は多彩で面白い。





オルガさんのキッチンにちょっとおじゃまして

高橋逸夫さん草薙節夫ご夫妻らと巨大な石の裏から登り始め5時間かけて都合2周もした。



頂上からの眺望は素晴らしい。サントーバンの綺麗な街や宿や滑空場までも一望できる。

くだる樹間から見おろすと吸い込まれそうな巨大な石。下山して待望のビールで喉を潤す。井手尾雅彦氏が着いていて、信三さんと雅彦さんは周囲をジョキングして飛行に備えた。

サントーバン最終日の日は天候が良くない。でも信三さんと弱い斜面風を丁寧に拾って3時間飛び、上空から撮りたかった林立する巨大な石群をカメラに収めることが出来た。ニンバス4のオーナーに返すため、機体を整備し丁寧に磨き上げて係留した。

オーナーご夫妻を招待し今年もまた海外での誕生日を祝って戴き、翌日ドイツへ向かった。

運転をしてくれる信三さんに感謝し、スイス国境を経て凡そ時間の行程でに着く。ドイツではクリスチャーニのご実家でご両親にお目にかかる。お母様は美しくお優しく手作りの美味しい素敵なディナーを用意してくださり嬉しく涙のほど感動致しました。



グライダーの第一人者であるお父様は現役で、貴重なグライダー談議に話が弾みました。

一夜を過ごした綺麗な街は、川を挟んで崖の高い所まで教会や瀟洒な家々が建ち並ぶ。ホテルの噴水の前を横切る、愛らしい子供と上品な母親に思わずシャッターを切った。



・ 日は 泊の予定で、滝沢ご夫妻がプランしてくださった待望のウンターワッセン滑空場を訪ねるため迎えに来てくれる。南下し4時間かけてウンターワッセンの町に着く。

周囲が山に囲まれた滑空場は始めて。滑走路は広く飛行機曳航ができ固定ウインチが2台。

会長にご挨拶を済ませ、フ란ツはじめ何人かと歓談し茶菓をご馳走になる。



滝沢ご夫妻は、久々に同じトップクラスのご友人と会えて懐かしく旧交を温めておられた。  
私は早速に教官フランツと ファルケで、オーストリア国境近くの雪の山々を楽しんだ。



翌!! 日は朝方雨模様で!! 会長の案内で皆とザルツブルグ岩塩の採掘場を体験し楽しむ。  
世界でも名だたる規模の大きさに圧倒される。岩塩の味は甘塩っぱくてまろやかだった。



晴れて急ぎ帰り!!!! で崖に接触するかと些か緊張ぎみ。来場に合せて祝って下さった町長より記念のマグカップの授与があり、取材でグライダーの功績を褒めてくださった。





滝沢クリスチャーニ、信三さんお世話になりありがとう。心から深くお礼を申し上げます。